

# 住 近況

樹木希林さんの最後の映画を

観たの  
だ

これから数ヶ月、「平成最後の何とか」というフレーズが世の中にあふれるでしょう。だから、あまり使いたくないのですが、平成最後の秋に大森立嗣監督の映画「日日是好日」をみました。助演女優の樹木希林さんが、公開の一か月前に逝去したこともあって話題になった映画でした。原作はエッセイストの森下典子著『日日是好日』（新潮文庫）です。

原作の副題に「お茶が教えてくれた15のしあわせ」とあることからわかるように、著者本人が大学三年のときに、従姉妹のミチコといっしょに、タダモノじゃない「武田のおばさん」からお茶を習いはじめた記録です。

原作者は、就職につまずき、結婚式二か月前の破談、そして突然の父の死。みずからの人生の季節をたどりながら、二十五年続けたお茶のお稽古からの気づきをつづったエッセイです。

映画をみる前に、原作を買ったのですが、読み終わってみると二五〇頁ほどの文庫本には付箋が何十枚も貼られた私の『日日是好日』になっていました。名言名句満載の好著です。

付箋を貼った名言の中から、「仏事」に応用できる言葉をいくつか紹介すれば……。主人公がお茶を習いたての頃、どこもかしこもがんじがらめのうるさい作法に、イライラしてきます。

先生は、次のように語ります。  
「お茶はね、まず『形』なのよ。先に『形』を作っておいて、その入れ物に、後から『心』が入るものなの」

仏事も同じですね。「なんで、わけのわからないお経を読むの?」「なんで、何十年も前に亡くなった人の法事をするの?」。意味がわかってからやることも大事だけど、やってみなければわからないこともあります。

心は形にあらわれ、形は心をあらわします。